

LaTeX2 $\epsilon$  構成雛形

```

\documentclass[オプション]{jsarticle}
\setlength{\topmargin}{-1cm} % ページレイアウト：本文を書く場所を 1cm 上に上げる。
\setlength{\textheight}{24cm} % ページレイアウト：本文の縦の長さを 24cm にする。
\usepackage[dvipdfmx]{graphicx} % 画像を取り込むときに必要
\usepackage{makeidx} % 索引を作るときに必要
\makeindex % 索引を作るときに必要

\begin{document} % 文書の始まり

\title{題目}
\author{著者}
\date{} % 日付を出力しないときは、引数を空にして\date コマンドを使う。
\maketitle

\begin{abstract}
概要を書く。
\end{abstract}

\tableofcontents % 目次作成コマンド

\section{はじめに}
\label{intro}
序論を書く。

\section{この節の題目}
\label{この節のラベル}
\subsection{この小節の題目}
\label{この小節のラベル}
この小節の内容。

\subsection{この小節の題目}
\label{この小節のラベル}
この小節の内容。

\begin{equation} % 方程式の環境
数式を入力
\label{この数式のラベル}
\end{equation}

\begin{figure}[htbp] % 図の環境
\centering
\includegraphics[オプション]{画像ファイル名}
\caption{図の説明}
\label{この図のラベル}
\end{figure}

\begin{table}[htbp] % 表の環境
\caption{表の説明}
\label{この表のラベル}
\centering
\begin{tabular}{表の書式}
表のデータを書く
\end{tabular}
\end{table}

\section{結言}
\label{concl}
結言を書く。

\begin{thebibliography}{99} % 参考文献（文献数が 10 報～99 報のとき）
\bibitem{この文献のラベル}
文献データ
\bibitem{この文献のラベル}
文献データ
:
:
\end{thebibliography}

\printindex % 索引を出力

\end{document} % 文書の終わり

```

◎ 相互参照の方法

節、小節、数式、図、表の参照は、 $\text{\textbackslash ref}{ラベル}$  で参照。

参考文献は、 $\text{\textbackslash cite}{ラベル}$  で参照。

◎ 画像サイズ情報の作成

EPS 形式の画像以外は、自分で画像のサイズの情報を作る必要がある (EPS は、サイズ情報を持っているので、作成不要)。

やり方は、次の通り (東女大の情報処理教室でのやり方。他のシステムでは、そのシステムのやり方に従うこと)。

☆ ターミナルを起動

☆ 画像ファイルを置いたフォルダ (普通は、原稿と同じフォルダ) に行く (「cd 行き先フォルダ名」を繰り返して、目的のフォルダまで辿って行く)

☆  $\$ \text{extractbb}$  画像ファイル名  $\boxed{\text{return}}$



(下線部を入力:  $\text{extractbb}$  コマンドでサイズ情報を作る)

プロンプト

これで、拡張子が  $\text{xbb}$  のファイルができ、その中にサイズ情報が書かれる。

◎ 索引の作り方

☆ 索引を付ける語の後ろに  $\text{\textbackslash index}$  コマンドを置く。

例:

読みが不要な語 (平仮名やアルファベット) では  $\text{display}\text{\textbackslash index}\{\text{display}\}$

読みが必要な語 (漢字) では読み方も書く。弓  $\text{\textbackslash index}\{\text{ゆみ@弓}\}$  (注: @ は半角)

☆ 原稿が完成したら、ターミナルで索引語が五十音順、アルファベット順にならんだファイルを作る。

やり方: 原稿を置いたフォルダに行き (「cd 行き先フォルダ名」の繰り返し)

$\$ \text{mendex}$  ファイル名.idx  $\boxed{\text{return}}$  (拡張子が  $\text{ind}$  のファイルができる)

☆ タイプセットする。